



査まで受けたが、原因が不明では、何のための検査だったのでしょうか？

最近、メタボの方が急増し、自分のデータでは、アセチルコリンにて冠動脈に異常収縮反応を示す方が、約 20 年前から徐々に増えて、約 2-3 倍になってきています。血糖値・コレステロール値・中性脂肪値の上昇を認め、高血圧・脂質異常症・糖尿病の方が増え、お腹がでてきた中年男性の肥満者 (BMI>25) は約 20 年前の 1.5 倍に増えていきます。また、**冠攣縮性狭心症**は、以前は、中年以降の男性に多いとされていましたが、最近では、10 代から 40 代での若年発症も珍しくなくなってきています。食生活の欧米化等から、我々日本人に特有の心疾患も低年齢化してきています。私は、約 20 年間、愛媛の田舎の病院を転々としながら、この冠攣縮性狭心症を中心に、細々仕事を続けてきました。17 年間の検査成績をまとめた論文が、日本心臓病学会誌の 2010 年度の**最優秀論文賞(上田賞)**を受賞しました。どこかで、だれかが、見ていて下さるようです。継続は力なりを実感しました。

胸がどうもおかしい、循環器科の先生にみてもらったがちゃんとした診断を付けてもらえない・はっきりしないという読者の方も多くおられると思います。一度、**当院の水曜日の午後の「冠攣縮外来」**を受診してみてください。河野浩明医師と末田で診察させていただきます。

#### 第4回愛媛県立新居浜病院市民公開講座



12 月 11 日に新居浜市市民文化センターにて第 4 回愛媛県立新居浜病院市民公開講座を開催しました。

**動脈硬化とメタボ**をテーマに多くの方に参加いただきました。

今年も市民公開講座を開催して参りたいと思いますので、是非ご参加ください。

#### 脳死下臓器提供シミュレーション



臓器移植法の改正以降、15 歳未満からの臓器提供が可能となり、全国的に**脳死下臓器提供**が増えています。提供候補者が 18 歳未満の場合、虐待の有無を確認しなければなりません。当院においては、平成 19 年に脳死下臓器提供経験がありますが、改正法に対応するべくマニュアルの見直しを行い「小児からの脳死臓器提供候補者」が発生したと想定し、臓器提供のプロセスについて、院内体制を確認しながら、シミュレーションを行いました。

#### 認定看護師について

認定看護師とは日本看護協会が認定した看護師のことで、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、**水準の高い看護実践ができる看護師**のことです。看護現場において実践・指導・相談の 3 つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献しています。

当院には 4 人の認定看護師が存在します。

日々、どのような活動を行っているか、紹介したいと思います。



# 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 薬師神 理絵

脳卒中医療では「脳卒中の予防対策の強化」「脳卒中急性期医療の充実」「脳卒中リハビリテーションの充実」にむけて専門職の資質向上が求められる中、看護の分野でも脳卒中発症時から病状の経過に応じた専門的看護を提供できる「脳卒中リハビリテーション看護」認定看護師を新たな分野に特定し、2010年7月、全国で79名、愛媛県で第1号の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が誕生しました。

脳卒中リハビリテーション認定看護師は「脳卒中という疾患とそれに伴う障害を持つ人々へのリハビリテーション・プロセスを支援する看護」を専門性として以下のような役割をもち活動します。

## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割

- ① 脳卒中急性期における脳組織への影響に対する臨床判断を的確に行い、病態の重篤化回避のためのモニタリングとケアをおこないます。
- ② 急性期、回復期、維持期において、一貫した生活再構築のプロセス管理とセルフケア能力を高めるための計画的な回復支援をおこないます。
- ③ 脳卒中患者様の機能障害に対して、急性期から病態に応じた活動性の維持、促進のための早期リハビリテーションをおこないます。
- ④ 高次脳機能障害が日常生活に及ぼす影響を予測し障害にあったリハビリテーションを日常生活に取り入れ、社会復帰に必要な支援をおこないます。
- ⑤ 脳卒中再発予防のための健康管理について患者様とご家族へ指導を行います。
- ⑥ 脳卒中リハビリテーション看護の実践を通じて役割モデルを示し、看護スタッフへの指導、相談をおこないます。
- ⑦ 個々の障害に応じた自立支援のために、他職種と協働しチーム医療及び地域連携を促進します。
- ⑧ 脳卒中患者様とご家族の擁護者として、相談・調整をおこないます。

※認定看護師として第一歩を踏み出したばかりの未熟ものですが、患者様、ご家族の悩みや不安を共に解決できるよう支援させていただきますので、いつでもご連絡ください。

端座位は運動強度がわずかで抗重力筋の活用、換気の改善、関節運動、覚醒刺激などの効果があり早期からすすめられる。



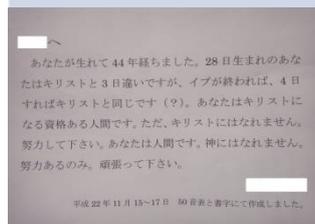
移動の介助では、重心のかけ方など患者様が身体操作の技を身につけられるよう「自立をめざす介助」をおこなう。



脳卒中急性期では30~50%の患者様に嚥下障害がおこる。口腔ケアは食べる機能回復もめざしておこなう。



失語症の患者様が家族にあてた手紙。言語聴覚士がベッドサイドで50音表を使い、患者様の思いを引き出し表現することができた。

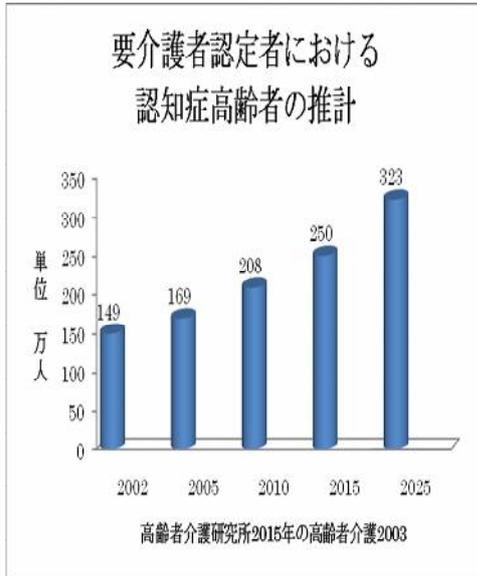


## 脳卒中リハビリテーション

# 認知症のお話

認知症看護認定看護師 真鍋光子

平成22年高齢社会白書によると、65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,901万人（前年2,822万人）となり、総人口に占める割合（高齢化率）も22.7%（前年22.1%）となり、5人に1人が高齢者の時代になりました。また、認知症高齢者も年々増加し、20年後には約330万人に達すると予測されています。85歳以上のお年寄りの3~4人に1人が認知症といわれています。



認知症というと何も分からなくなる、という印象を思い浮かべ、まだまだ認知症の正しい知識が地域の方だけではなく、医療従事者の中でも十分理解されていないのが現状ではないでしょうか。そんな日本の社会現状の中、日本看護協会は認定看護師の特定分野に認知症看護を設立し、2005年より教育を開始しました。現在（2010年）の時点で全国に122名の認知症看護認定看護師が育っています。

122名ではまだ少ない!!(\*\_\*)というのが現状です。また、愛媛には私を含めて2名の認知症看護認定看護師しかいません。

私は認定看護師の資格を得てから2年目で、今年度の4月より新居浜病院に転勤となり循環器内科・心臓外科・呼吸器内科病棟で勤務しながら活動を開始しています。

では、認知症看護認定看護師は何をするのか。

認知症看護とは、認知症患者さんの意思表示を補う役割を担い、生命・生活の質を尊重し、安心して療養生活を送れるようにご家族の方も含め支援していくことです。

現在の活動 ①所属している病棟で検査や手術、治療を受ける認知症患者さんへの看護

②専門的な知識・技術を院内、他の県立病院の看護師への指導

③認知症看護に関わる相談を受け、院内での認知症看護の質向上

認知症による生活障害や不安を抱えながら他疾患を合併し、急性期病院という環境の中で生活することは、さらなる苦痛を招きかねません。しかし、できるだけ認知症患者さんやご家族の方が安心して治療が受けられ生活できるように、認知症患者さんの立場・視点に立った生活環境づくりに取り組んでいきます。



認知症の人は  
こんなふうに  
意思を持って  
生活しています。

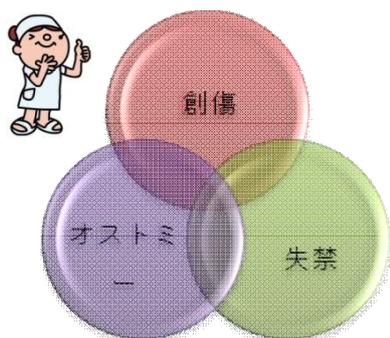
認知症の人たちによる「本人会議」で

まとめられたアピール（2006）

◇ 認知症のために何が起きているのか、  
どんな気持ちで暮らしているのかわかってほしい

◇ わたしはわたしとして生きていきたい

## 皮膚・排泄 ケア認定看護士とは・・・ 皮膚・排泄ケア認定看護師 高橋 由華



皆さん、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）と聞いて、どのような役割をもつ看護師だと思いますか？皮膚・排泄ケア認定看護師は、『**創傷 (Wound)・オストミー (Ostomy)・失禁 (Continence)**』の3つの領域を担っています。**創傷**は院内の褥瘡予防対策の実施と褥瘡保有患者のケアや処置の検討、瘻孔や慢性創傷の創のドレナージや創底管理を行い継続的なケアを行います。**オストミー**は人工肛門・人工膀胱を持つ患者様の全人的ケアと退院後安心して社会復帰が行えるように家族を含めて継続的な支援を行います。

そして**失禁**ではおむつ使用患者さまの正しいオムツの選択方法や、おむつを使用することで発生する皮膚障害予防のためのスキンケアを行います。それぞれが**人間の基本的欲求部分であること、尊厳を守らなくてはならない重要な領域**です。そして認定看護師はその3領域に対して、**医師・看護師・コメディカル・家族・地域の方々**に専門的知識を用いて**実践・指導・相談**の役割でかかわっています。

### ★認定看護師の活動★

当院では、月2回第2・4火曜日14時から皮膚科の永井先生、皮膚・排泄ケア認定看護師、管理栄養士、薬剤師とともに褥瘡をもつ患者様のベッドサイドを訪問し診察やケアを行い、**より良い治療や今後のケア**について検討しています。今は在宅療養で褥瘡を治療されている方もいますので、入院時に褥瘡を持っているかたも少なくありません。回診で各職種がかかわることで多くの情報を集結し、療養生活が病院でも施設でも在宅でもより良い方法が選択できるようにかかわっています。また地域との連携は重要ですので、退院前に**処置方法が継続できるのかを在宅担当者と協議**することも行っています。正しい知識と技術を浸透させるために、**勉強会**を開催し院内や院外の看護師や介護職の方に参加していただいています。

今後は、人工肛門をもつオストメイトが退院後安心してケア継続ができるストーマケアや慢性創傷を持つ患者様のスキンケアなど患者様・ご家族が**日常生活を快適に、そして生き生きと過ごせる環境調整**にかかわっていきたくと考えています。毎週火曜日午後は皮膚・排泄ケア認定看護師の活動日です。院内のラウンドを行い**褥瘡処置の直接指導や看護の方向性の検討、外来患者様のストーマケアや相談**などを行っています。**お困りのことや相談したいことがございましたら当院までお越しください。**

### 《★勉強会の様子☆》



**興味のある方はお気軽に参加してください。**

## ICTの活動を紹介します 感染管理認定看護師 西本麻紀



みなさんは、ICT（院内感染対策チーム）をご存じですか？  
主な活動として次のようなことを行っています。

### 1. 手指衛生ラウンドグループ

各部署をラウンドし手指衛生が適切に行えているか  
チェックしています。

### 2. MRSAラウンドグループ

田村先生がリーダーとなり、MRSA患者さまが入院している病棟へ行き、  
対策がきちんと実施できているかチェックしています。

### 3. ゾーニンググループ

各部署をラウンドし清潔・不潔の観点から環境が整えられているか  
チェックしています。

### 4. マニュアルグループ

院内感染対策マニュアルの見直しと改訂を行っています。

### 5. 広報グループ

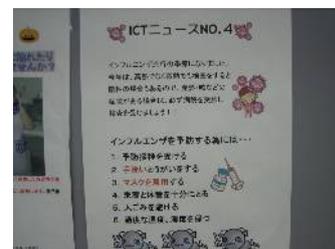
ICTニュースの発行、ICTホームページの作成を行っています。

### 6. 研修グループ

院内研修の企画・運営を行っています。



アルコールジェル  
使ってますか？



ICTニュース

院内感染対策徹底のために、  
ICTメンバーはさまざまな  
活動を行っています。  
その先頭に立つのがICDで  
ある塩出先生です。  
ICT活動に慣れていないメ  
ンバーもいますが、協力しあ  
って頑張っています☆



中央：塩出先生  
（感染対策委員長、ICD）  
左：白石看護長  
（感染防止委員長）  
右：西本  
（感染管理認定看護師）

ICT活動とはどんなものであるか・・・少しはわかっていただけましたか？  
院内のみなさまの理解と協力がなければ、感染対策は行えません。  
時々ICTメンバーが院内のいろいろな場所に出発しています。  
うっとうしいと思うこともあるでしょうが、嫌な顔せず、おつきあいください。

インフルエンザ流行時期です。ワクチン接種はしましたか？

手洗い、うがいをしっかり行ってください。マスク着用も大切な対策の一つです。

ノロウイルス感染症もこの時期で昨年の2倍の流行だそうです。

ノロウイルスも手洗いが重要！

インフルエンザ、ノロウイルスともにこれからがピークです。

感染予防をして、この冬を乗り切りましょう。

